



写真-1 旅順池（令和2年4月撮影）

### ■ 広大な鶉野台地を灌漑する

上の写真-1は、県立フラワーセンター（加西市豊倉町飯森）の南にある旅順池で、池の向こうに見える小高い山が飯盛山です。また、右の写真-2は、飯盛山から南方向を撮った写真で、山麓に旅順池、その向こうには西ノ段池や奉天池が見えます。

飯盛野疏水関係の溜池は、昭和61（1986）年7月の『飯盛野土地改良区調』によると、貯水量1万立米以上の溜池が21ヶ所（貯水量=1,592,000m<sup>3</sup>）、1万立米未満の溜池が11ヶ所（貯水量=51,500m<sup>3</sup>）、計32ヶ所（貯水量=1,643,500m<sup>3</sup>）あります。



写真-2 飯盛山から南方向を望む

### ■ 必要な貯水量を確保するために

『飯盛野疏水工事沿革誌』（以下『沿革誌』という）によると、鶉野（うずらの）台地にある既存溜池の数は当時35ヶ所あり、これらの溜池により旧田を灌漑していました。明治36（1903）年4月に設立された飯盛野普通水利組合は、鶉野台地に新規開田する250町歩を灌漑するために必要な水を、非灌漑期に万願寺川から取水した水を疏水路により増築あるいは新築した溜池に導水・貯留することにより確保します。増築する溜池は5基で、堤防を9尺（≒2.7m）嵩上げします。加えて、新規に2基の溜池を築造することに。

- ・嵩上げる5基の溜池は次のとおり：三田池、亀ノ倉池（以上第1区：豊倉町区）、野田池（第6区：中町・北・南・中区）、大池（第2区：上宮木町区）、小畑池（第3区：下宮木町区）
- ・新設溜池は次のとおり：旅順池（第4区：鶉野上町区）、奉天池（第5区：鶉野南町区）

## ■ 既設溜池の嵩上げ

既設溜池5基（三田池、亀ノ倉池、野田池、大池、小畑池）の堤防を9尺（≒2.7m）嵩上げて、121,500立坪の貯水量を確保します。これらの溜池の嵩上げにかかる費用は、各区が負担します。（1立坪=5.83m<sup>3</sup>）

下図は、奉天池の説明板にあった図を加工したものです。図中の赤線で囲んだ溜池は、疏水事業に関連して嵩上げた池（5基）および新設した池（2基）です。



図-1 飯盛野疏水概要図



写真-3 三田池（さんだいけ）



写真-4 野田池



写真-5 小畑池

溜池名	区	所在地	堤高 (m)	堤長 (m)	貯水量 (m <sup>3</sup> )	満水面積 (ha)
三田池	第1区	豊倉町字山之谷	5.8	269	※ 62,000	3.23
野田池	第6区	中西町字広野	5.4	142	144,000	4.4
亀ノ倉池	第1区	豊倉町字三の谷	8.3	197	173,000	6.93
大池	第2区	上宮木町字大林	4.0	404	※ 73,500	3.84
小畑池	第3区	上宮木町字小畑	6.9	660	138,000	3.81

表-1 既設溜池の諸元（農村環境室『ため池台帳』の最新情報による。ただし※の数値は『兵庫の土地改良史』による。）

## ■ 日露戦争の激戦地の地名を冠した新設溜池～奉天池・旅順池

78,500立坪の貯水量を確保するために、溜池を2基新規に築造します。明治38（1905）年に完成した2基の新池は、日露戦争<sup>※1</sup>の戦時記念として、激戦となった「旅順攻囲戦」と「奉天会戦」から、激戦地の地名を冠して旅順池および奉天池と名付けられました。

表-2 新設溜池の諸元

溜池名	区	所在地	堤高 (m)	堤長 (m)	貯水量 (m <sup>3</sup> )	満水面積 (ha)
旅順池	第4区	鶉野町字飯盛前	3.4	304.8	59,000	2.92
奉天池	第5区	鶉野町字段の池尻	7.80	1,087.6	335,000	6.7

（農村環境室『ため池台帳』の最新情報による。）

※1 日露戦争：明治37（1904）年2月8日（2月10日宣戦布告）から明治38（1905）年9月5日にかけて、大日本帝国とロシア帝国との間で行われた戦争。朝鮮半島と満州の権益をめぐる争いが原因となって引き起こされ、満州南部と遼東半島が主な戦場となったほか、日本近海でも大規模な艦隊戦が繰り広げられた。明治38（1905）年9月5日両国はアメリカ合衆国の仲介の下で日露講和条約（ポーツマス条約）に調印し講和した。中でも有名な戦いが旅順攻囲戦、奉天会戦、日本海海戦である。

旅順攻囲戦は、明治37（1904）年8月19日から翌年1月1日にかけての戦いで、ロシア帝国の旅順要塞を日本軍が攻略し陥落させた戦いである。

奉天会戦は、明治38（1905）年2月21日から3月10日にかけて行われた日露戦争最後の会戦。奉天は現在の瀋陽。

日本海海戦は、明治38（1905）年5月27日から5月28日にかけて、対馬沖において日本海軍の連合艦隊とロシア海軍のバルチック艦隊との間で行われた海戦で、日露戦争中の最大規模の艦隊決戦である。連合艦隊は海戦史上稀に見る勝利を収め、バルチック艦隊の艦艇のほぼ全てを損失させながらも、被害は小艦艇数隻のみの喪失に留めた。日本にとって海戦での決定的勝利は、和平交渉を拒否していたロシア側を講和交渉の席に着かせる契機となった。



写真-6 奉天池と奉天ゴルフセンター

## ■ 既存溜池の貯水量

『沿革誌』において既設溜池に関する記述は、P.12の「各区における在来及び増築溜池の容量調」にあるだけです。ここでは、増築溜池3基を含む35基の溜池の総貯水量が244,953立坪とあり、最終的な増築溜池5基と整合しません。増築溜池の容量を除く貯水量は、169,063立坪になります。



写真-7 伝通池



写真-8 中池



写真-9 田水池

## ■ 飯盛野疏水事業の竣工を記念して

疏水事業の竣工を記念して、大正 2 (1913) 年 3 月「飯盛野疏水記念碑」(写真-10) が建立されています。場所は、主要地方道 23 号・三木穴栗線に面して、フラワーセンター前交差点の南東約 50m の所です。

碑文は漢文で書かれていて、加西郡長・小出雅雄撰によるものです。碑の背面には功労者の氏名が刻まれています。



写真-10 飯盛野疏水記念碑

## ■ 鶉野飛行場建設で 13 基の溜池が埋め立てられる

太平洋戦争中、加西郡九会村(くえむら)・下里村(現・加西市鶉野町)に川西航空機姫路製作所組立工場の専用飛行場として鶉野飛行場<sup>※2</sup>が建設され、その際、上宮木および鶉野南地区の水源である溜池のうち 13 基が埋め立てられました。その結果、当然のことながら用水不足がきびしくなったそうです。

右の写真は、奉天池の南にある「鶉野飛行場に残る戦争遺跡・無蓋掩体壕(むがいえんたいごう)」と、そこに展示されている「SNJ-5 練習機」です。

この無蓋掩体壕は、太平洋戦争末期、空爆に備え「紫電」などの飛行機を隠すために設けられた簡易なシェルターで、爆風・破片除けの土堤のみで屋根がなく、代わりに木の枝や木の葉で覆ったものです。昭和 20 (1945) 年 7 月に入り、連合軍の戦闘機による攻撃が頻繁になりましたが、飛行場周辺に 55 ヶ所設けられた無蓋掩体壕によって、1 機も破壊されることはなかったそうです。



写真-11 展示されている SNJ-5 練習機

**※2 鶉野飛行場**：姫路海軍航空隊や筑波海軍航空隊分遣隊が駐留し、訓練基地および特別攻撃隊の出撃拠点となった。滑走路は、全長 1,200m、幅 60m が 1 本。当時、川西航空機姫路製作所では紫電、紫電改が製造されており、それぞれ 486 機、44 機が組み立てられた。かつては防衛省が管理していたが平成 28 (2016) 年 6 月に加西市に払い下げられた。

## ■ 「加古川西部土地改良区」と「加西市飯盛野土地改良区」が合併

飯盛野普通水利組合は昭和 25 (1950) 年 8 月に組織変更し、兵庫県認可第 1 号である「加西市飯盛野土地改良区」が設立されました。

そして、令和元 (2019) 年 10 月、組織運営の効率化などを目的として、北播地区を中心に農業用水の供給などを担う「加古川西部土地改良区」<sup>※3</sup>と合併しました。歴史的価値のある飯盛野疏水の保全や活用にも取り組んでいくそうです。

**※3 加古川西部土地改良区**：昭和 43 (1968) 年に加西市、小野市、西脇市、加東市、多可町と姫路市(山田町)の農地に農業用水を供給する国営事業の一環として飯盛野を含む地域で発足した。加古川中流域の西岸(右岸)地帯に広がる加西市を中心とした穀倉地帯の受益地と、取水施設(ダムおよび頭首工)の位置する多可町などの地域から成り立っている。加古川西部用水は水田、畑地などへの新規農業用水確保のため、昭和 42 (1967) 年～平成 3 (1991) 年にかけて国営土地改良事業として、靴屋ダム、頭首工(4)、揚水機場(1)および導水路、幹線水路が造成された。農道、ほ場整備、溜池改修などの事業も行われ、農業経営の安定と近代化が図られた。

## ■ モノローグ

飯盛野疏水についていろいろと調べてみましたが、事業実施当時のことを記した資料が『沿革誌』しかなく、事情に詳しい土地改良区の方も 90 歳を超えるご高齢ということで、残念ながらモヤモヤ感が残る結果となりました。

飯盛野普通水利組合管理者だった加西郡長・山田知秀は、『沿革誌』の緒言の最後に、「ここに事業の梗概(あらまし)を上梓(じょうし)して、一は記念のため関係者に頒(あか)ち、一は将来における事業計画者の参考の資となることを得ば本組合の幸のみならんや」と述べています。関係者の苦労の歴史を後世に残すためには、事業中から『沿革誌』のネタを少しずつ記録していくことが大切ではないでしょうか。

#### 【参考資料】

- 1 『兵庫の土地改良史』 兵庫県 平成2年3月
- 2 『飯盛野疏水工事沿革誌』 飯盛野普通水利組合事務所 明治40年6月
- 3 『日露戦争、旅順攻囲戦、奉天会戦、日本海海戦、ウマノアシガタ』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

#### キンポウゲ (金鳳花)

キンポウゲ科の多年生草本。和名はウマノアシガタ (馬の足形) で、由来は根生葉を馬の蹄に見立てたものと言われる。旧播磨国ではウマゼリと呼ぶ。飯盛山北の疏水路沿いに咲いていた。有毒植物で、誤食すると腹痛や下痢、嘔吐などの症状が現れる。また、汁液が付着すると皮膚の弱い人は赤く腫れ上がったりする。長い柄の先につく若葉は、薬草のゲンノショウコに似ているので注意が必要。俳句の季語は春である。花弁は5枚で横に開き、光沢がある。



写真-12 キンポウゲ (令和2年4月撮影)

※発行：令和3(2021)年1月 『ひょうご水百景』 No.119  
改訂：令和8(2026)年4月 『ひょうご水百景』 No.119